

四 つ の 葉



平成31年 新年号

特定非営利活動法人グリーンハート 042-304-0800

自分が歳を取っていくからなのか一年が本当に早く感じられます。

平成31年、元号が変わる年です。今年もじっくり一歩ずつ歩いて行きたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

厨房の大掃除を平成30年の11月Yさんの声掛けでさせていただきました。2012年11月1日開所し6年に一回の営業許可の更新も無事に終え、掃除に参加した4人で6年もたったのだなーと感慨深い思いでお掃除をしました。

実は今年の途中で厨房の営業をやめようかなと思いきや理事のNさんにお話したところ、「総会でやめるという話もしなかったし、営業更新だけはしておいては？」とご注進いただき中途半端に続けていくのはいけないことだけど、最初に何をしたかったのかを思い起こし、気持ちを切り替え更新手続きを済ませました。2019年はこの厨房の活用を真剣に考える年としたいと心に決めました。「あれば何かできる。」という安易に思いついて作った厨房ですが、何かになるよう努めていく年にしたいと思っています！！

*6周年を振り返るためにシリーズ、今回はお休み。

児童デイサービス事業「ツリーハウス」「ツリーハウス」L i k oの様子

2018年の夏休みはとにかく暑かったー。

デイの生活も本当に困りました。外は暑くて危険だし、お出かけしても暑くて長い時間外を歩くのも大変でした。よく利用したのが都立の多摩図書館。綺麗でパソコンを使っての検索や、自由に本を読める環境は近い場所にあって本当に良かったと感じました。また、みんなの楽しみは本を見た後のカフェでのおやつタイム。自分の好きなものを一品食べて満足そうな様子でした。メロンパンが大人気でした。

また、夏休み恒例のバスハイクではお台場へ行って水の科学館？で見学やクイズを楽しみました。

秋が来るのも遅く、毎日暑い暑いといていた気がしました。9月からは時間が進むのが本当に早く感じられ、小学6年生は進路先も決まってきました。来年はどんな一年になるのだろうとさみしいような嬉しいようなそんな気持ちで年始を迎えています。



「よつば亭のおはなし。」

どこにあるのか、そして何故つぶれないかなど怪しい雰囲気を持ちながらも6年。知る人には知ってもらっているお弁当を作っている事業です。今回はどんな風に作っているのかレポートしたいと思います。

ある日のメニュー

- ・豚肉生姜焼き
- ・マカロニサラダ
- ・もやしとコーンの炒め物
- ・サツマイモのきんぴら

全部入って一つ500円

1、メニュー決め その日の主たる担当者(今は私を含め3人居ります)が何を作ろうかなと決めていきます。この前はお肉がメインだったから今日は魚かなとか前日作った人と話をしながら決めていきます。



2、お米を研ぎます。最初のお仕事

←10合炊きの炊飯器二つを使ってお米を炊いています。合数は大きいですがまさに家にあるのと同じです。



3、野菜などを切ります。結構この作業が大変です。

手際よく切っていきます。

4、出来上がったら今度は詰めていきます。

ご飯は一人前190グラムです。

5、こんなところで売っています。気が付かない方も多いです。なぜか目立たないように売っています。



この先は少しずつ宣伝も、とは考えていますが20個前後作るのが精いっぱい。

それでもおいしさを追求しながら喜んでもらえるよう頑張ります！！

最近ではご予約もいただけ感謝しています。みんなで何かできることを追求します。

「東京都強度行動障害支援者養成基礎研修」を受けての感想

昨年私がこの研修を受けデイに来ている子供たちを理解するのにとても良い研修だと感じ、二人の職員に行ってもらいその感想を書いてもらいました。

*放課後等デイサービス「ツリーハウス」 指導員 四宮 義幸

日々行動障害を持つ子供たちと接する中で私たちはどう支援していけばいいのか、障害を基本的な視点から学び、支援の基本を理解することを目的とした研修でした。

1日目の講義では実際の支援の事例も参考に障害特性と環境要因とが強度行動障害を起こしていることを学びました。さらに私たちの支援とは、問題行動をなくすことがゴールではなく、生活の質を高めその人らしく生きることが出来るようにすること。そのためには支援の質を高めることが重要なのだと改めて気づかされました。

2日目は、グループ単位で演習を行いました。この「話しことばの理解が難しい人」の疑似体験では、肯定的な表現で伝えることが大事だということ、また言葉だけの指示はストレスにすらなることを実感しました。

もう一つの演習は事例から障害特性と環境要因を考えるものでした。見えている問題行動だけを見るのではなく、その背景を考えることで彼らが周りを困らせているのではなく、彼ら自身が困っているのだということが理解できました。これからもそれぞれの障害特性を探り理解できるように、また決して話しことばに依存しないように気を付けて寄り添って行ければと思っています。

*放課後等児童デイサービス「ツリーハウス」 Liko 指導員 甲斐伊佳子

7月の12日、20日の2日間研修を受けてきました。

1日目は座学にて「強度行動障害とは」という定義から入り、支援の基本的な枠組みや構造化、また医療との連携の重要性などを学び、最後に支援施設での実践報告を聞き障害特性の理解の重要性を感じることが出来ました。

2日目は6人ずつのグループに分かれて、演習を通して疑似体験(話す言葉が「わからない」「伝えられない」状況)することで困り感を知り、その行動の背景に障害特性と環境要因が関連していることを理解するという学びをしました。そして本当に理解してくれている大人との出会いによってよりよい生活が送れるようになり、生きづらさを感じている子供たちへの支援になるということも学びました。

今回の研修は、環境要因に支援者も含まれるということを改めて気づかされたことや学びがたくさんありました。学んだことを生かし、これからも一人一人が安心して過ごせる場、いごちのいい居場所づくりのお手伝いができるよう頑張っていきたいと思います。

11月15・16・21日の3日間みっちり研修を受けてきました。

虐待防止法が出来て運営規定にも委員を載せてなどと形の上で理解はしてきましたが、きちんと学んでみたいと思い参加させてもらいました。3日間とても中身の濃い内容で、改めまして自分たちが行っている事業を見直すことや、一人一人の尊厳を大事にせねばならないと思いました。

研修の結果報告と学びを事業所全体でするようにということでさっそく今後は内部研修をしたいと考えています。

(平成31年1月28日(月曜日) 恋ヶ窪公民館講座室1にて10時より研修報告を行います。)



平成30年を振り返って

今年を振り返ることは、平成を振り返ることにもつながるのかななんて思いますが、平成30年の4月から始まった放課後等児童デイサービス事業の報酬改定は本当にまじめにやってきた私たちにとってきつく苦しい改定となりました。形だけでも人員配置をしていればお金がもらえるというのは私自身には容易に受け入れられるものではなく、本当に大事に支援をし続けるには人間性がいかに大事か！と日々思うところです。どうしても納得いかない支援を続けるなら報酬減算も仕方ない！！と息巻いたりもしましたが、それはそれで難しい問題でした。二つあるデイサービスを一つにしようかなとも考えていますが、、、利用してくださっている方がいる限り頑張ろうと思ってみたり。揺れた一年でもありました。

そんな苦しい状況の中息子が20数年前お世話になった教員の皆様に再びでお会いすることができ、相変わらず熱い思いをお聞きしそのうえアドバイスをしに来てくださったり、月二回定期的に入っていただけたりと私自身の心のモチベーションを高めてくださいました。そして今ある息子の姿に、自分自身もがいて過ごした日々を重ね最重度の口もきけない我が息子が日々「別に困ってないわ。」という顔で暮らしていることに本人はじめ多くの方々への感謝の気持ちが浮かんできました。それなりに大変だったとは思いますがその日々を今は忘れていきます。ただ今も感じるのはいつの時代もご家族は頑張っていることです。そのお手伝いや気持ちの支えになれるよう来年も精進したいと思います。

前年度あったことをきちっと反省し今年につなげていきたいと思っています。関わってくださった皆様ありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。 文責 本間

